

学校法人 岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
平成 30 年度 第 1 回 教育課程編成委員会

日 時	平成 30 年 9 月 21 日 (金) 16:25～17:30
会 場	横浜リハビリテーション専門学校 非常勤講師室
出席者	秋田 裕 (公社) 神奈川県理学療法士会 監事 斉川 大介 藤沢湘南台病院 リハビリテーション科 科長 理学療法士 錠内 広之(一社) 神奈川県作業療法士協会 会長 野々垣 睦美 クラブハウス すてっぷなな 統括所長 作業療法士 橋本 卓雄 学校長、林 克郎 副校長、中村 啓文 理学療法学科長 水島 眞由美 作業療法学科長、瀬古 恵美、秋本 浩、机 里恵、

内 容

1. 橋本学校長挨拶

教育環境が大きく変化しており、新しい大学や専門職大学などが開設される状況の中で、本校のカリキュラムも常に変化していかなければならないと考えます。本校がさらに変化し、よりよいカリキュラム内容になるよう、ぜひ先生方からご意見を伺いたくお願いいたします。

2. 出席者確認・資料確認 (林)

3. 本校の教育活動について (林副校長)

今回は、以前より検討頂いている理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則改定や専門職大学移行へのカリキュラムについて、各学科から素案を説明させていただきます。カリキュラムの方向性や内容についてご意見をいただければと考えております。

(資料参照)

横浜リハビリテーション専門学校カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー

理学療法学科・作業療法学科カリキュラム新旧対応表(案)

理学療法学科・作業療法学科カリキュラム・マップ

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則の一部を改正する省令案について(概要)

理学療法士・作業療法士学校要請施設カリキュラム等改善検討会報告書(概要)

専門大学設置基準及び専門職短期大学設置基準の概要

4. カリキュラム移行計画に関する質問応答および意見交換

[外部委員] 専門職大学の展開科目とあるが、どのような内容のものか。

[学校] 専門領域に直接的な関わりではなく関連した内容のもの。例えばロボットや起業に向けた経営学、海外協力などに関することや建築に関することなどが対象になると考えます。

2025 年ぐらいから高校生が減ってくるので専門職大学・専門学校のどちらであれ本校の特色を出したい。

- [外部委員] 今回の新しいカリキュラムの導入は養成施設指定規則への対応で、専門大学への移行の時には再度見直しをしていくのか。
- [学校] カリキュラムの変更は読み替えなど作業が複雑になるため、できれば度々の変更はせず、来年 7 月までに情報を確認しながら、指定規則改定と専門大学への移行のどちらにも合うように内容を検討していきたい。
- [外部委員] 管理・運営学とは何をやるのか？
- [学校] もうすでに教科書が出されていて、リスクマネジメントや職場の人事などを含む管理、コーチング、地域の中のお職種とのマネジメントなどで、PT・OT 協会の新人教育プログラムで実施している内容と同様のものです。
- [外部委員] 生活環境学のようなリハ工学的な内容のものもあるといいのではないかな。特殊スプリントやシーティングなど PT・OT 共通のものがあるといい。
- [学校] 現在はそれぞれ義肢装具学の中で実施している。昔ながらの手づくりのスプリントや自助具の作成もいいが、IT との融合したものも検討したい。
- [外部委員] 作業療法学科のカリキュラムでレクリエーション学とあるが内容はどのようなものか
- [学校] 作業療法では集団療法が重要であるので、集団療法に関することが中心である。あくまでもレクリエーションは方法として学びます。科目名の検討が必要かもしれません。
- [外部委員] 生活行為向上マネジメント(MTDLP)の活用を実習へも移行していくのか。
- [学校] OT 協会でも診療参加型の臨床実習を推奨しており、MTDLP を使用する方向となっている。そのため、臨床実習でも MTDLP 活用での実習となっていくと思う。
- [外部委員] 理学療法学・作業療法学リテラシーの具体的な内容は何か。
- [学校] 4 年間で学んだ知識の振り返りを中心に総合科目として導入したい。
- [外部委員] 単位数が多くなることによって高校生が本校への入学を希望しなくなるのか。
- [学校] どちらかというとう単位数というよりは、カリキュラムの内容で判断しているように感じる。しかしながら学生に合わせて考えると、これ以上に必要な授業はあるので、さらなる検討をして整理しスリム化が必要と思われる。
- [外部委員] 臨床実習時間は 45 時間となっているが、基本的には 40 時間で残り 5 時間は別の課題を実施するのか。
- [学校] 5 時間については時間外でのレポートなどの記録物の実施時間として考えている。予習・復習時間を実技形式でどのように取り込むかは課題である。
- [外部委員] 基礎的な実験をしてレポートするような生理学実習的なものはあるのか。基礎的なものも非常に大事であり、卒業レベル・卒論レベルをどこまで持って行くのか今後の課題になると思う。
- [学校] 現在では運動学実習や卒業研究の科目で実施している。入学したけれど卒業できなかったというものでは困るので、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位）の中で慎重に検討したい。
- [学校] その他、ぜひこのような科目も必要ではないかというご意見をいただければと思います。
- [外部委員] 現在の新人 PT・OT は学会やカンファレンスの中でディスカッションがとても苦手なように感じる。ディスカッション能力を高めるような内容のものもあるといい。

[外部委員] 実習とは別に、当事者の話や体験談を聞く授業があると、より実践に役に立つのではないだろうか。

[外部委員] AIを導入したものなどもいい。

かなり臨床経験が必要になるものかもしれないが、確率だけでも学生の時からわかると面白いのではないだろうか。

[外部委員] その他の職種の体験もいいと思う。広い視野で見れるようになってほしい。

5. その他

・次回会議について

本日はありがとうございました。今回ご意見頂いたことを参考にして、次回の会議で中間報告より少し進んだ形でご報告させて頂き対と思います。次回は平成 31 年 3 月 15 日（金）に予定したい。改めて、ご案内を送付いたします。

以上

文責：机